



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月7日

上場会社名 株式会社 アテクト 上場取引所 東
 コード番号 4241 URL <https://www.atect.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小高 得央
 問合せ先責任者 (役職名) 経理・財務部次長 (氏名) 菅原 偉夫 (TEL) 0748-20-3400
 四半期報告書提出予定日 2020年2月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	2,273	1.8	125	△35.5	92	△47.9	89	△34.7
2019年3月期第3四半期	2,232	8.9	195	45.6	177	62.5	137	86.7

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 78百万円(△40.9%) 2019年3月期第3四半期 132百万円(48.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	20.40	20.28
2019年3月期第3四半期	31.56	31.07

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	5,308	1,686	31.4
2019年3月期	5,362	1,665	30.3

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 1,667百万円 2019年3月期 1,624百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	1.5	180	△14.0	160	△17.5	100	△21.3	22.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	4,402,900株	2019年3月期	4,395,900株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	15,688株	2019年3月期	15,595株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	4,383,029株	2019年3月期3Q	4,341,141株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

現有の経営資源である「ヒト・モノ・カネ」を最大限に活用した新たな事業ポートフォリオを作成し、衛生検査器材・半導体資材の2大コア事業に加え、P I M事業を将来的に高機能部品・自動車部品の2大事業に独立させ、4大事業からなる企業体とするべく、新5ヶ年計画(NP5Y-Challenge50)をスタート致しました。その1次年度となる当第3四半期連結累計期間の売上高は全セグメントにおいてプラスとなり、グループ連結売上高は1.8%の増収となりました。連結売上総利益については各事業部での原価低減活動が奏効し、過去最高を更新、51百万円(前年同期比4.9%増)の増益となりました。一方、販管費については次代の中核事業として見据える自動車部品事業の研究開発費、開発用設備の減価償却費、幹部社員の中途採用費等の費用が前年同期比で120百万円(14.2%)増加し、グループ連結営業利益は69百万円の減益となりました。

尚、当連結会計年度における期首事業計画は、売上高の増加により上述の増加した販管費を十分に吸収し、営業利益においても増益を計画しておりましたが、主に下記2点の理由で売上計画に乖離が生じました。

- 1) 半導体資材事業：円高・韓国ウォン/台湾ドル安の影響と一部顧客の在庫調整により、出荷数量が横ばいとなり、当第3四半期連結会計期間単独では5期ぶりの減収(46百万円の減収)となりました。
- 2) P I M事業：半導体製造設備、工作機械等の世界的な需要の落ち込みが続く中、予定していた直動型ベアリングをはじめとする高機能部品の受注が想定を大きく下回る結果となりました。一方で2車種の自動車ターボ部品の試作を正式受注し、敢えて、売上拡大の為のリカバリーも含めた高機能部品受注獲得に向けた営業活動を控え、試作イベント(本イベントを経て量産を開始する自動車メーカー共通の流れ)に特化しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,273百万円(前年同期比1.8%増)、営業利益125百万円(前年同期比35.5%減)、経常利益92百万円(前年同期比47.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は89百万円(前年同期比34.7%減)となりました。

セグメントの経営成績は次の通りであります。

① P I M(パウダー・インジェクション・モールディング)事業

1) 高機能部品

新5ヶ年計画(NP5Y-Challenge50)における高付加価値戦略商品として、前期に受注済の高機能部品11品番に加え、当第3四半期連結累計期間において高機能部品19件、材料販売7件を新たに獲得致しました。主な内訳は直動型ベアリング5件、FA機器関連部品3件、セラミックス製CMOSセンサー部品等になります。

2) 自動車部品：VG(Variable Geometry)ターボ部品

中国ターボ部品メーカーの参入により現行ターボユニットの価格競争が激化する動きが急速に強まる中、従来工法であるファインブランキング(プレス)やロストワックス等ではコスト、品質面での両立が厳しくなっていることから、国内大手ターボメーカーより、当社P I M工法によるノズルベーンを含む数種類の部品製造への引き合いが非常に多くなっています。2車種5品番の試作の正式受注獲得に加え、既存の製品に対してコストダウンにつながる代替案であるVA(価値分析としての生産性改善)提案による当社への切替案件も進行中です。現在、P I M事業部門のあらゆるリソースをこれら試作イベント(本イベントを経て量産を開始する自動車メーカー共通の流れ)に注力させ、上述の高機能部品の受注活動を一旦、制限し対応しております。また、2019年2月にリリースした転位強化技術(1000度の使用環境に耐えうるP I M製部品)を利用した、2023年以降に普及が期待される次世代ガソリンターボ(VG方式)部品の商品化についても平行して進めております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は76百万円(前年同期比13.3%増)、営業利益24百万円(前年同期比20.0%増)となりました。

② 衛生検査器材事業

新5ヶ年計画(NP5Y-Challenge50)において、コアビジネスであり安定継続事業として位置付ける本事業はここ数年、安定した売上高を堅持しております。2019年3月に「大口顧客獲得」「訪問販売」を目的とした営業所を東京に開設し10ヶ月が経過しました。従来の本社テレマーケティング営業のみでは出来なかつたきめ細やかな顧客へのフォローと新規顧客獲得以外に6ヶ月以上、受注が途切れていた先への販売再開等が奏効し、当第3四半期連結累計期間の売上高は4期ぶりの増収に転じました。原価面においても、収益率の高い培地製品の販売が好調であったことに加え、シャーレ製造部門の生産変革活動により、売上総利益は590百万円となり、50百万円(前年同期比9.3%増)の大幅増益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,206百万円(前年同期比2.3%増)、営業利益43百万円(前年同期比12.2%減)となりました。

③ 半導体資材事業

当第3四半期連結累計期間における販売数量は前年同期比10.9%と伸長しましたが、円高・韓国ウォン/台湾ドル安の影響により、売上高は0.5%増に留まりました。また、当第3四半期連結会計期間単独売上高は一部顧客の在庫調整等の影響もあり、出荷数量は4期ぶりにほぼ横ばいとなり、売上高は為替の影響により、46百万円の減収となりました。売上総利益についても461百万円と高収益を維持していますが、8百万円(前年同期比1.8%減)の減益となりました。

新5ヶ年計画(NP5Y-Challenge50)達成の上で本事業を安定成長事業として位置付け、グループ成長戦略の担い手である事業としての方針に変更はなく、4Kテレビの比率拡大、スマートフォン向け対応への量産体制の強化を推進して参ります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は990百万円(前年同期比0.5%増)、営業利益57百万円(前年同期比53.9%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は、前連結会計年度末に比べ1.0%減の5,308百万円となりました。

これは、「商品及び製品」が60百万円増加する一方、「現金及び預金」が101百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べ2.0%減の3,622百万円となりました。

これは、「支払手形及び買掛金」が49百万円、「設備関係支払手形」が56百万円増加する一方、「短期借入金」が170百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ1.2%増の1,686百万円となりました。

これは、「利益剰余金」が45百万円増加する一方、「新株予約権」が21百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年2月7日付で通期の業績予想を修正しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	452,583	350,943
受取手形及び売掛金	452,291	439,465
商品及び製品	161,844	222,454
仕掛品	21,631	18,461
原材料及び貯蔵品	210,857	214,023
その他	48,614	50,237
貸倒引当金	△1,587	△1,590
流動資産合計	1,346,234	1,293,994
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,029,969	1,050,415
機械装置及び運搬具(純額)	785,671	712,819
土地	1,531,044	1,531,044
建設仮勘定	306,942	295,571
その他	153,687	208,262
有形固定資産合計	3,807,316	3,798,114
無形固定資産		
その他	83,365	86,169
無形固定資産合計	83,365	86,169
投資その他の資産		
投資有価証券	2,720	3,690
繰延税金資産	92,884	98,165
その他	30,744	29,620
貸倒引当金	△791	△901
投資その他の資産合計	125,558	130,573
固定資産合計	4,016,240	4,014,858
資産合計	5,362,475	5,308,852

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	385,014	434,477
短期借入金	170,000	-
1年内返済予定の長期借入金	743,922	655,924
リース債務	9,655	15,964
未払金	64,940	64,284
未払法人税等	18,498	16,129
賞与引当金	52,168	26,231
設備関係支払手形	10,278	66,800
その他	59,460	72,769
流動負債合計	1,513,937	1,352,582
固定負債		
長期借入金	2,170,222	2,205,640
リース債務	-	48,836
繰延税金負債	89	64
退職給付に係る負債	10,077	13,227
その他	2,226	2,232
固定負債合計	2,182,615	2,270,002
負債合計	3,696,553	3,622,584
純資産の部		
株主資本		
資本金	797,701	801,587
資本剰余金	717,701	721,587
利益剰余金	162,049	207,664
自己株式	△7,722	△7,842
株主資本合計	1,669,730	1,722,997
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	969	1,643
為替換算調整勘定	△45,921	△57,537
その他の包括利益累計額合計	△44,952	△55,894
新株予約権	41,144	19,164
純資産合計	1,665,922	1,686,267
負債純資産合計	5,362,475	5,308,852

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	2,232,748	2,273,102
売上原価	1,187,956	1,176,641
売上総利益	1,044,791	1,096,460
販売費及び一般管理費	849,773	970,763
営業利益	195,018	125,697
営業外収益		
受取利息	44	107
為替差益	26	-
受取賃貸料	239	239
還付金収入	3,873	3
助成金収入	5	600
その他	1,076	712
営業外収益合計	5,264	1,662
営業外費用		
支払利息	13,953	12,652
減価償却費	831	17,113
為替差損	-	2,735
訴訟関連費用	5,907	-
その他	2,190	2,348
営業外費用合計	22,883	34,849
経常利益	177,399	92,509
特別利益		
固定資産売却益	-	531
新株予約権戻入益	-	19,436
保険差益	23,106	3,207
特別利益合計	23,106	23,175
特別損失		
固定資産除却損	19,500	1,056
減損損失	3,379	-
特別損失合計	22,879	1,056
税金等調整前四半期純利益	177,626	114,628
法人税等	40,600	25,210
四半期純利益	137,025	89,418
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	137,025	89,418

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	137,025	89,418
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△495	674
為替換算調整勘定	△3,810	△11,616
その他の包括利益合計	△4,306	△10,941
四半期包括利益	132,719	78,476
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	132,719	78,476
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用につきましては、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。